

感染症の登園基準（2023年）令和5年度

R5.5/8 改訂

* 登園時に登園届が必要になります。登園届の用紙は園にあります。

	病名	潜伏期	感染しやすい期間	主な症状	登園基準
1	インフルエンザ	1～4日	症状が有る期間（発症前24時間から発病後3日程度、感染力大）	発熱・全身倦怠 筋肉痛・鼻水・咽頭痛・咳	発症日を0日として 発症後から5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで
2	百日咳	7～10日	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	発作性咳の長期 反復、持続	特有な咳が消失、又は5日間の抗菌薬の治療が終了するまで。
3	はしか（麻疹）	8～12日	発症1日前から発疹出現後の4日後まで	咳、鼻水、発熱 粘膜疹、コプリック班	解熱後3日を経過していること
4	おたふく風邪 （流行性耳下腺炎）	16～18日	症状3日前から耳下腺腫脹後4日	発熱、耳下腺・舌下腺・顎下腺の 膨張および圧痛	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫れが発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
5	風疹	16～18	発疹出現の前後7日	発疹、発熱、リンパ腺主腫脹大	発疹が消失するまで。
6	水ぼうそう （水痘） （帯状疱疹）	14～16日	発疹出現前1、2日前からすべて（痂皮形成）かさぶたになるまで	軽熱、被覆部に 発疹・斑点丘～疹状～水疱～顆粒状かさぶた。	全ての発疹がかさぶたになってから。
7	アデノウィルス プール熱（咽頭結膜熱）	2～14日	潜伏期後半～発症後約5日間	発熱・全身症状・ 咽頭炎と結膜炎の合併症	発熱・充血等の主要症状が消失した後2日経過してから。
8	流行性角結膜炎	2～14日	発熱、充血等の症状が出現した数日間	軽熱・頭痛・全身倦怠感・結膜炎の炎症・眼瞼浮腫・目やに	結膜炎の症状が消失していること。
9	胃腸炎	12h～3日	症状のある間と、症状消失後1週間	発熱・嘔吐・下痢・腹痛	嘔吐、下痢等の症状が治まり 普段の食事がとれること。
10	RSウイルス感染症	4～6日	呼吸器症状のある間	発熱・咳・喘鳴、 呼吸困難	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと。

	病名	潜伏期	感染しやすい期間	主な症状	登園基準
1 1	急性出血性結膜炎	2~3 日	発病後約 4 日	流涙・結膜充血・眼瞼浮腫・浸出液	治癒するまで。
1 2	手足口病	3~6 日	手足や口腔内に水泡・潰瘍が発症した数日間	感冒様症状、手足口に赤班~水泡	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普通の食事がとれること。
1 3	ヘルパンギーナ	3~6 日	急性期の数日間（便の中に1ヶ月程度ウイルス排出あり注意要）	高熱・咽頭痛・咽頭に水泡	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普通の食事がとれること。
1 4	リンゴ病 (伝染性紅斑)	4~14 日	発疹出現前の 1 週間	顔面蝶型紅斑、特に頸部紅斑発疹	全身状態が良いこと。 (紅斑が残っている場合には活動により赤みが強くなることもある。)
1 5	溶連菌感染症	2~5 日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後 1 日間	発熱・咽頭痛・扁桃腺炎・莓舌、頸部リンパ節炎	抗菌薬の内服開始から 48 時間が経過するまで。
1 6	マイコプラズマ肺炎 (うつる肺炎)	2~3 日	適切な抗菌薬治療開始前と開始後数日間	呼吸困難（重症）咳、発熱	解熱し激しい咳が治まっていること。
1 7	突発性発疹	9~10 日		高熱 3 日後に全身に発疹	機嫌がよく全身状態が良いこと。
1 8	ヒトメタニューモウイルス感染症	4~5 日	呼吸器症状のある間	発熱・咳・喘鳴・嘔吐・下痢	咳などの症状が安定した後、全身状態が良いこと。
1 9	とびひ (伝染性膿痂疹)	7~10 日	水泡消失まで	主として豆粒大の水泡、かゆみ	他人へ感染の恐れがないと医師が認めたとき *
2 0	水いぼ (伝染性軟属腫)	2~7W		球状の水いぼ	他人へ感染の恐れがないと医師が認めたとき *
2 1	新型コロナウイルス感染症	約 3 日	発症後5日間	発熱・呼吸器症状・頭痛・倦怠感	発症した後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過すること

* 19.20 は、浸出液が出ているときには、必ず患部をガーゼ等で覆ってから登園してください。

★前日に嘔吐や下痢、高熱（38.0℃以上）のあった場合はお預かり出来ません。また、朝の時点で、37.5℃以上の発熱がある時は、お子様をお預かり出来ない場合があります。家族内で感染症が発生した場合、園児も療養期間中はお休みのご協力をお願いします。園内の感染症拡大防止にご協力をお願いいたします